

豊 沢 川 農 業 水 利 事 業

～ 水 は 今 日 も 流 れ て 来 て ま す か ～

事 業 概 要 図



豊沢ダム全景

豊沢川流域の 水利開発と水田開発

宮沢賢治の童話「なめとこ山の熊」の舞台、ナメトコ山や西和賀町沢内地区の家並みが眺望できる中山峠、雫石町に至る峰越峠などの豊かなブナの原生林から湧き出る水が、その水量を増して溪流となり豊沢ダムに注ぎ、豊沢川の清流となっています。

豊沢川流域の水利開発は、今から300年余り前、旧南部藩士による新田堰の築堤、開削に始まり、その後逐次開田が進められました。

この地域の水田は、豊沢川、瀬川その他の小溪流を水源とし、大小24ヶ所の取水堰による取水の他、数多くの小ため池によりかんがいを行っていました。どの河川も流域が狭いため、水田が増加するにしたがい用水不足となり、度々発生する干ばつ被害に見舞われ、水利紛争が頻発するようになりました。

こうした中で、安定的な水源を確保するため、豊沢川上流部に農業用ダムが必要だとして、昭和13年稗和西部耕地整理組合が組織され、積極的なダム建設運動が展開されました。その熱意が幾多の困難を乗り越え、昭和16年に県営事業として工事着工されました。途中、戦争等の影響を受けて工事は一時、中断されるという不測の事態もありましたが、昭和24年から国営豊沢川土地改良事業に引き継がれ、昭和36年春に豊沢ダムが竣工の運びとなったのです。

並行して、国営附帯県営事業や県営かんがい排水事業、並びにほ場整備事業が全域で実施され、約9割に当たる約3,800haが整備されました（一部実施中）。更に、平成4年度から大区画化の整備及び担い手への農地集積も進められています。



豊沢ダム



大区画ほ場整備の状況

事業概要

国営かんがい排水事業「豊沢川」地区は、岩手県のほぼ中央部に位置し、花巻市及び北上市にまたがる4,250haの水田地帯です。本地区の営農は、水稻を中心に、水田の畑利用による小麦、野菜等を組み合わせた農業経営が展開されています。

豊沢ダムは、地区内の農業用水を安定的に確保するため、国営豊沢川土地改良事業(昭和24年度～昭和36年度)により造成されましたが、築造後50年以上が経過し、経年的な施設の劣化による鋼構造物の腐食や変形等が発生し、農業用水の安定供給に支障を来しているとともに、維持管理に多大な費用を要しています。

このため、本事業はダムの改修と水力発電施設の新設により、農業用水の安定供給と施設の維持管理費の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するため実施するものです。

事業の対象

地 域	岩手県花巻市・北上市（2市）
-----	----------------

受益面積

(平成25年4月現在)

地目 関係市名	田 (ha)	畑 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
花 巻 市	4,105	—	—	4,105	
北 上 市	145	—	—	145	
計	4,250	—	—	4,250	

(土地登記簿面積)

事業費

67億円
(平成25年度単価)

事業工期

着 手	平成27年度
完 了 (予定)	令和7年度 (11年間)

用水計画

計画基準年

昭和42年
豊沢ダム確保容量
1/10確立相当年

かんがい方式とかんがい期間

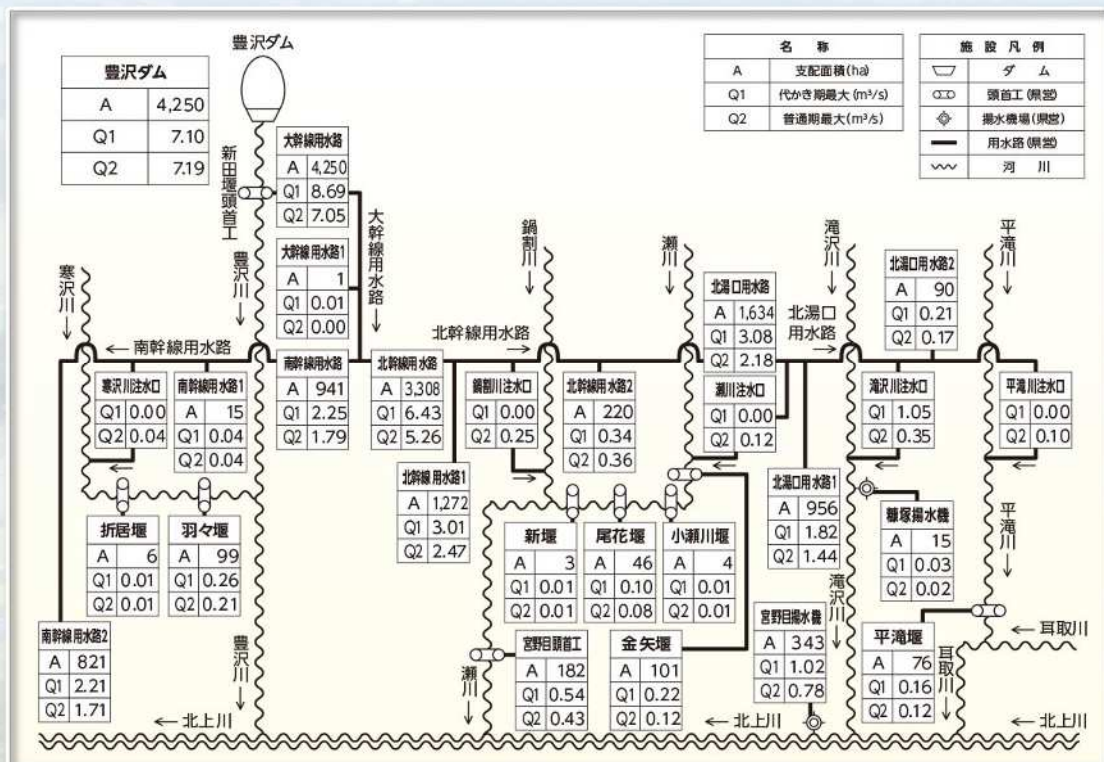
地目	作物	かんがい方式	かんがい期間
水田	水稻	たん水かんがい	4月下旬～ 9月上旬
	畑作物	うね間かんがい	5月上旬～ 9月上旬

水 利 用 計 画

(単位 km^3)

項目 区分	消費 水量	有効 雨量	純用 水量	粗用 水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種
					水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量	
水田かんがい	70,210	13,050	57,160	68,430	溪流 反復水 河川 豊沢ダム	2,900 2,540 35,090 27,900	57,160	0	0	—	—	—

計畫用水系統模式圖



主要工事計画

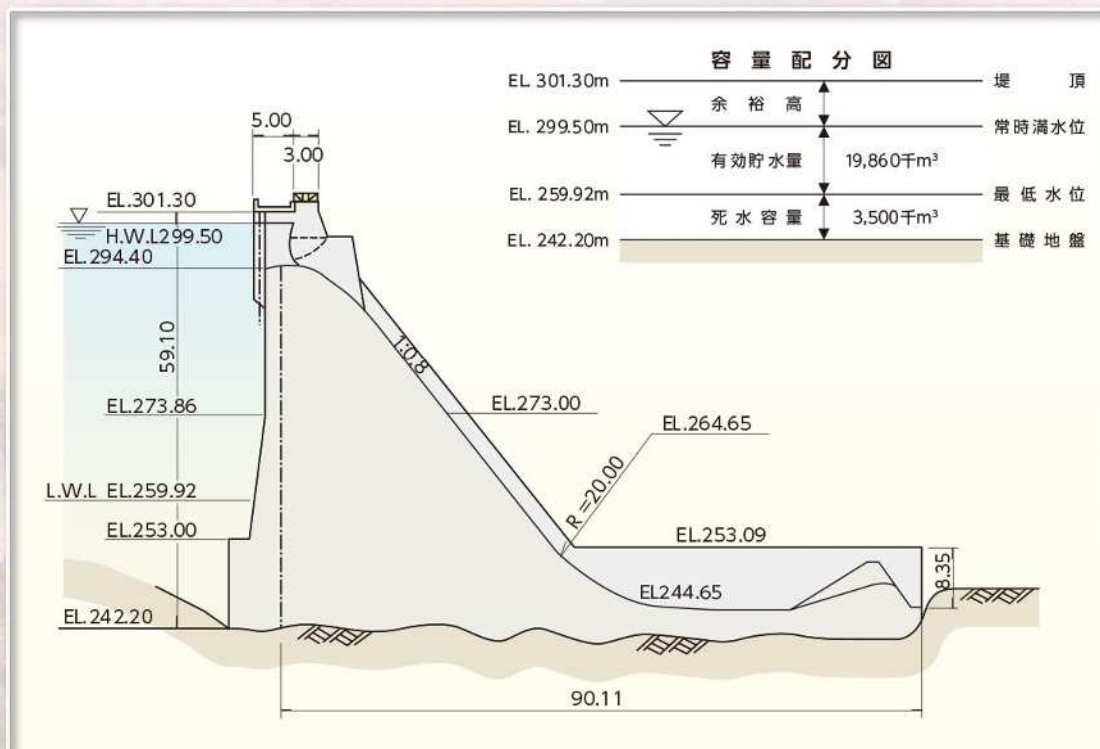
貯水池

名称	豊沢ダム			位置	左岸:岩手県花巻市北豊沢山 / 右岸:岩手県花巻市南豊沢山				備考	
堤 体	型式	流域面積(km ²)		堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (千m ³)	基礎 地盤 地質	貯水量(千m ³)		改修
		直接	間接					総貯水量	有効貯水量	
	重力式 コンクリート ダム	60.0	—	59.1	150.0	130	花崗岩	23,360	19,860	
洪水吐	型式	洪水量(m ³ /s)		取水施設	型式	取水量(m ³ /s)	放流施設	型式	放流量(m ³ /s)	堤体 取水施設 放流施設 洪水吐 管理施設
	越流型	546.00			取水塔式 (堤体設置型)	7.19		ジェット フロー ゲート	7.19	

その他かんがい施設

施設名	型 式		常時発生電力 (kW)	年間発生予定電力 (MWh)	備考
	発電機	水 車			
小水力発電施設	同期発電機	横軸フランシス水車	—	7,623	新設

豊沢ダム堰堤標準断面図



環境配慮計画

豊沢ダム周辺は、「花巻温泉郷県立自然公園」に指定されています。各施設の整備に当たっては、周辺景観との調和に配慮した施設の色彩とし、工事の施工に当たっては、周辺環境への影響を軽減するため、騒音振動対策や濁水流出防止対策に努めます。

洪水吐ゲート



現況



整備イメージ

豊沢ダム管理事務所



現況



整備イメージ

取水施設・電気室



現況



整備イメージ

小水力発電施設

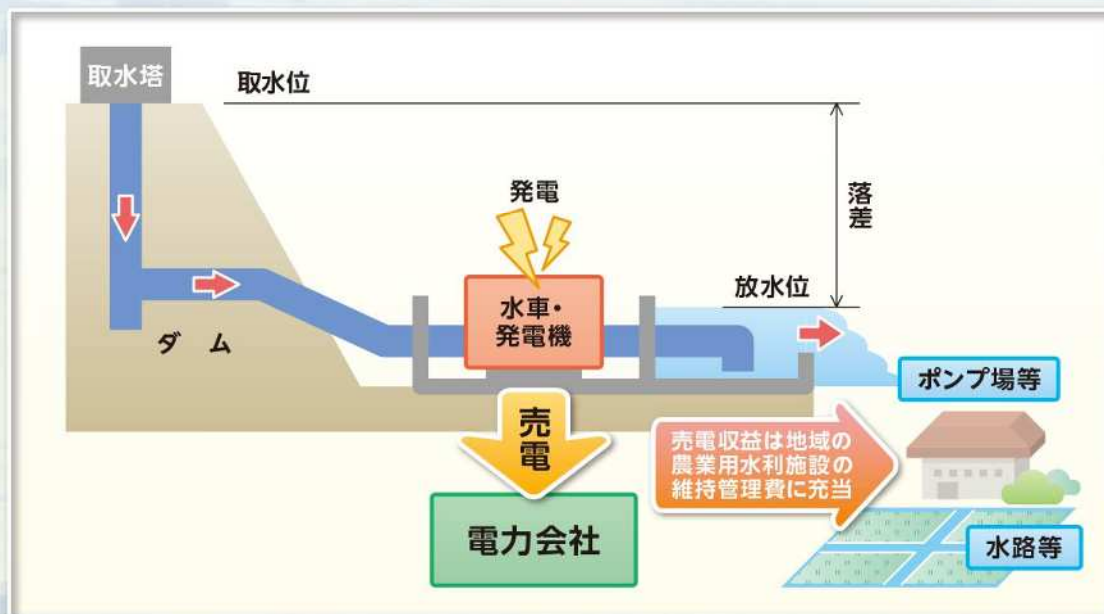


現況



整備イメージ

小水力発電の効用



地域農業の特徴

本地区の営農は、水稻を中心に、水田の畑利用による小麦、ねぎ、えだまめ等を組み合わせた農業経営が展開されており、県内有数の農業地帯です。

水稻



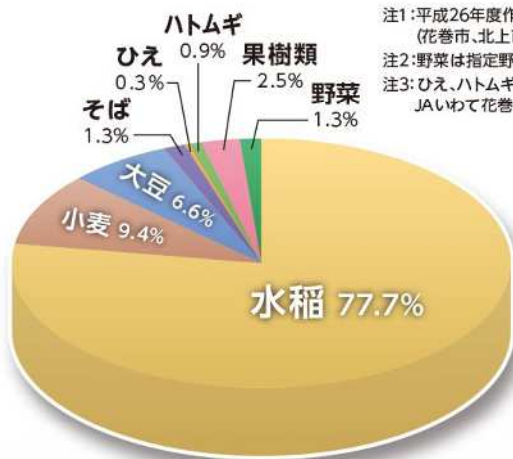
小麦



ねぎ



本地区の主要作物作付面積割合



注1:平成26年度作物統計より
(花巻市、北上市)

注2:野菜は指定野菜のみ計上

注3:ひえ、ハトムギ、果樹類は
JAいわて花巻より聞き取り

雑穀の販売所

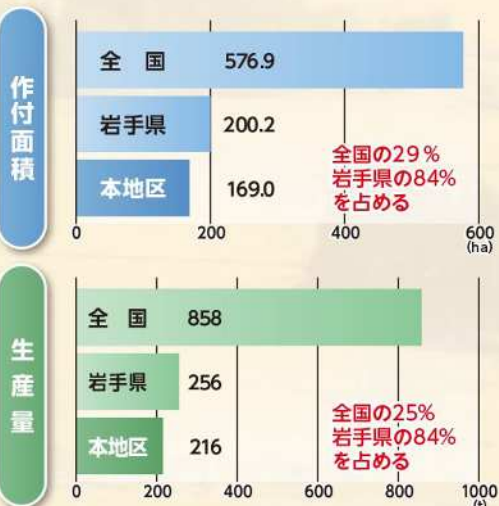


本地域は、日本一の雑穀(ハトムギ、ひえ等)産地であり、作付面積や生産量は県全体の8割以上を占めています。(平成25年度)

ハトムギ



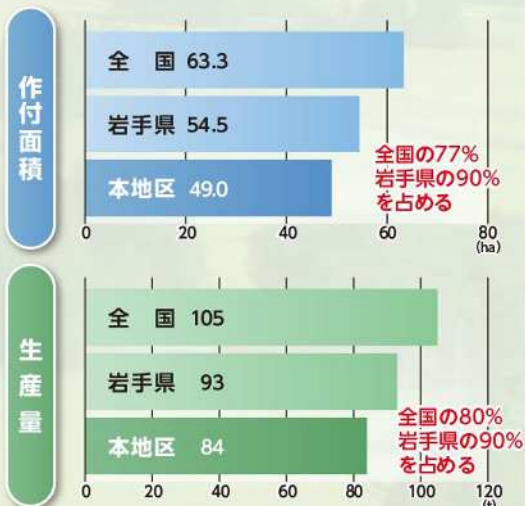
収穫状況



ひえ



作付状況



事業所周辺マップ



ダム建設への道を切り拓く

昭和13年に現在の豊沢川土地改良区の前身である稗和西部耕地整理組合が組織され、その初代組合長を務めたのが平賀千代吉氏です。氏はダム建設運動に奔走された、言わば豊沢ダム建設の立役者です。

氏への感謝の石碑には「水は今日も流れて来てますか」と刻まれており、これが表紙のサブタイトルの由来になっています。

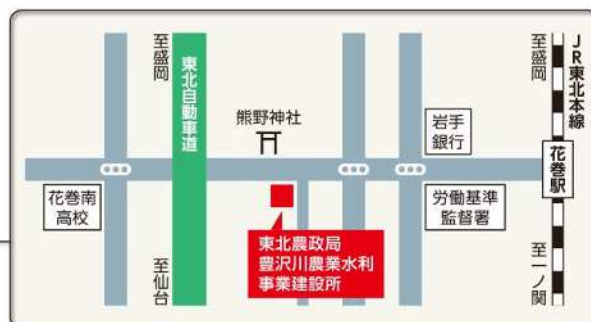
平賀千代吉氏碑



MAFF
農林水産省

東北農政局 和賀中央農業水利事業所
豊沢川農業水利事業建設所

〒025-0054 岩手県花巻市下北万丁目197-3
Tel 0198-21-2061 | Fax 0198-23-1414



作成年月:平成28年3月作成